

## ダイヤ高齢社会研究財団シンポジウム

## 100歳までのライフプラン ～将来の経済リスクに今から備える～

2017年11月15日開催

「人生100年時代」に近づきつつあるわが国では、家計、就労、健康、介護などさまざまな面で将来に対する漠然とした不安が語られています。

こうした現状をふまえ、当財団では、一人ひとりが100年を生きるためのライフプランを立てるうえで参考となる情報提供を目的として、本シンポジウムを開催しました。大学教授（経済学）、ファイナンシャル・プランナー、保険・資産形成の実務経験者、企業の人事担当者に登壇いただき、「人生100年時代」における将来のリスクや準備などを考える2時間半でした。

## 【第1部】講演

千葉商科大学 人間社会学部 教授 伊藤 宏一氏

「ライフプラン3.0と新しい資産形成の考え方」

伊藤氏は『100年時代の人生戦略 LIFE SHIFT』（2016年、リンダ・グラットンら著）に共鳴し、「ライフプラン3.0」という来るべき人生100年時代を生き抜くための概念を提唱されています。ライフプランの3つのモデル（「ライフプラン1.0」「同2.0」「同3.0」）とその考え方などに関する講演内容の一部をご紹介します。



「ライフプラン1.0」（以下「1.0」）は、高度成長時代を生きてきた団塊の世代の生き方で、若いときに教育を受け、定年まで一つの会社で仕事をし、定年以後が余生、という企業中心の典型的な3ステージモデルです。結婚が当たり前で、夫は仕事、妻は専業主婦という役割分担です。

「ライフプラン2.0」（以下「2.0」）は、バブルからバブル崩壊の時代に青春を過ごした現在40代から50代の方の生き方です。「1.0」同様に企業中心ではあるものの、「個人」が価値観の中心になり、ライフデザインが多様化してきました。晩婚化・未婚化が進み、共働きが増え、家族や親類、地域社会の分解が進みました。また、自己責任が強

調されはじめ、非正規労働者も増えていきました。3ステージモデルは終わり、仕事を抱えながら、住宅ローンの返済や自分の健康問題、子どもの将来、親の介護、引退後の生活の心配など、不安を抱えている世代です。

「ライフプラン3.0」（以下「3.0」）は現在30代以下の世代の生活設計で、「1.0」、「2.0」とは根本的に異なり、インターネットが普及し、上から管理する集中管理型社会から、人が横につながる分散ネットワーク型社会に変わります。モノは「所有」から「シェア」することが中心になります。人生に数度転職をしたり、同じ時期に複数の仕事をしたり、テレワークが普及するなど仕事が多様化する時代です。また、新しいキャリアを身につけるために入社後や定年後に大学・大学院に通うなど教育も多様化します。

「3.0」では現役時代から100年を見据えた長期的な生活設計を描き、生産性資産<sup>1)</sup>や活力資産<sup>2)</sup>、変身資産<sup>3)</sup>という無形資産の形成を計画的に進めることが重要です。そして、常に新しいステージに向けて無形資産を獲得するための投資を怠らないことが重要となります。

金融資産形成の考え方は、「1.0」では「貯蓄は長期、投資は短期」でしたが、「3.0」で必要なのは「貯蓄は短期、投資は長期」で、投資は「長期・分散・積立」の原則に基づいて行うことが必要です。

「3.0」は今後10年ほどで急速にやってくると予想しており、それに向けて教育、働き方、生き方を変えていくことが必要になるでしょう。

- 1) 生産性資産：スキルや知識、会社内外の仲間、評判
- 2) 活力資産：肉体的・精神的健康、家庭、人脈
- 3) 変身資産：人生で変身するための資産、多様なネットワーク、自分をよく知ること

## 【第2部】パネルディスカッション

4名のパネリストの方にそれぞれの立場から情報提供いただいた後、伊藤氏も加わり、「100歳までのライフプラン」をテーマに議論しました。

(情報提供)

FP事務所アイプランニング代表 飯村 久美氏

飯村氏はFPの立場から、人生100年時代を生き抜くうえでのマネーの3つの力（稼ぐ、貯める、増やす）とライフ

プランのポイントについて説明されました。

- ・人が幸せな人生を送るためには心と健康とお金のバランスが重要で、これらをふまえて、どう生きたいかというライフデザインを描き、それを実現するためのライフプラン、マネープランを立てることが必要。
- ・ライフイベントシートやキャッシュフロー表を書くことで、将来の出費を具体的な数字で“可視化”することが大切。

### 三菱UFJ信託銀行株式会社 フロンティア戦略企画部 エグゼクティブアドバイザー 星 治氏

資産形成の専門家である星氏は、人生100年時代の資産管理と運用のポイントについて説明されました。

- ・資産管理については、高齢になり認知症等で判断能力が低下してからでは対応方法が限られてしまうため、元気なうちに準備しておくことが肝要で、最近はそのための金融商品も開発されている。また、お金だけではなく不動産の管理も大切。
- ・資産運用については、今後のインフレリスクも考えると、分散投資が極めて重要。リスクとリターンが組み合わされることにより、比較的安定した運用が可能となる。
- ・資産管理と運用を相談できる専門家を決めておくことが人生100年時代の安心につながる。

### 明治安田生命保険相互会社 営業企画部 上席FPコンサルタント 山本 英生氏

保険の専門家の山本氏は、100歳まで考えた場合の人生におけるリスクと保障について説明されました。

- ・人生には4つのリスク（「長生きのリスク」「介護のリスク」「病気・ケガのリスク」「万一（死亡）のリスク」）がある。それぞれに対する公的保障として、老齢年金、介護保険、健康保険、遺族年金があるが、公的保障だけでは十分とはいえず、私的保障を準備することでより安心感が持てると思う。
- ・生命保険文化センターの調査によると、4つのリスクに対する保障の準備率は、「病気・ケガ」が73%、「万一」が64%、「長生き」が44%、「介護」が27%で、介護保障の準備ができていると考える人の割合が特に低い。
- ・自分が4つのリスクに対してしっかり準備できているかどうかを確認することが必要。

### キリン株式会社 人事総務部 人事担当 椎名 達也氏

企業の人事担当の椎名氏が、企業制度の例として、自社のキャリア形成支援とライフプランの設計支援について

紹介されました。

- ・キャリア形成支援については、①キャリアデザインセミナー（30歳、40歳、50歳の社員が対象）、②再雇用制度に関する説明（55～59歳の社員が対象）、③再就職支援（社外転進支援）の3つの施策を行っている。
- ・ライフプラン設計支援としては、①シニアライフセミナー（夫婦参加可能）、②ファイナンシャル・プランナー相談料補助、③各種セミナー（保険見直し、公的年金制度、NISA、iDeCo等）などがある。



### ダイヤ高齢社会研究財団 企画調査部長 森 義博(コーディネーター)

財団が実施したアンケートによると、平均寿命より短い寿命を想定している人が多いこと（平均寿命と想定寿命の差は男性3年、女性8年）を紹介し、より長く生きることを想定して準備する必要性を強調しました。

コーディネーターからの以下の問いかけに対して、各パネリストがそれぞれの経験や問題意識にもとづき見解を披露しました。

- ・定年後もいきいきと働くための準備時期とその内容（伊藤氏）
- ・キャリアデザインセミナーを30歳と40歳でも行っているねらい（椎名氏）
- ・人生100年時代に向け、企業に期待すること（飯村氏）
- ・長生きリスクに対応するための保険の準備を考える時期（山本氏）
- ・高齢期における信託の活用（星氏）
- ・金融知識やスキルを短期間で身につける方法（伊藤氏）
- ・若年層としてのライフプランに関する考え方（椎名氏）

<松田 均>

紙面の都合でシンポジウムの一部のみをご紹介します。シンポジウムの全容を収録した『ダイヤ財団新書』（無料）を3月に発行する予定です。ご希望の方は当財団までお問い合わせください。